

富秋中学校区等まちづくり検討会議（令和２年度第２回） 議事概要

１．日 時：令和２年８月２１日（金）１９：００～２０：００

２．場所：和泉市 人権文化センター １Ｆ 大会議室

３．出席者：委員 ２３名
和泉市職員 １４名

４．議事次第

１．施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の方針決定にむけて

ア）ミライの学校を創るプロジェクトの概要

イ）本日の検討会議での目的確認

ウ）ミライの学校を創るプロジェクトでの主な説明、意見

エ）意見交換

２．その他

５．議事概要

■開会

向井会長 挨拶

■施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の方針決定にむけて

まちづくり検討会議から参加しているメンバーが「ミライの学校を創るプロジェクト」での協議内容について報告を行った。

■ミライの学校を創るプロジェクトの概要

参加メンバーや開催状況、今後のスケジュールなどについて、橋本委員から報告があった。

■本日の検討会議での目的確認

各委員が個人的な視点で行政に意見する会議の場にするのではなく、自分達の意見をだしあい、共有し、地域として意見を集約し、検討会議として行政に提案していくという方向性を確認した。

■ミライの学校を創るプロジェクトでの主な説明、意見について

「①小中が一緒になることへの不安解消に向けて現在行っている取組紹介」、「②施設一体型義務教育学校（小中一貫校）のイメージの再確認」について、亀谷委員から報告があった。

「③通学対応の考え方報告」について、瀧委員から報告があった。

「④就学区域の考え方」、「⑤幸小学校、池上小学校の跡地利用の考え方」について、竹中委員から報告があった。

○意見交換

※以下、特記無き場合委員の発言

- ・ 公共施設を整備するのはいいことだが、それにより子どもが増えるかどうかが問題ではないか。どうしたらこの地域に子どもが増えるのか、人が集まるのかということを考えなければならないと思う。新しい公共施設ができたからといって必ず人が集まる訳ではない。このままではこのまちづくり構想が絵に描いた餅で終わる可能性がある。
- ・ 小中一貫校についてのスケジュールはどのようになっているのか。また、小学校跡地の活用はどのくらいの時期からになるのか。
⇒小中一貫校については、令和9年度から開校予定。跡地利用については、小中一貫校ができてからになるが、今年度に民間活力の導入可能性調査業務において事業者ヒアリングを予定しており、まちに必要な機能についてさまざまな可能性を考えているところ。(和泉市)
- ・ 就学区域の考え方について。小中一貫校ができた場合、葛の葉町の子どもたちはどのような扱いになるのか。
- ・ 現在、葛の葉町については、小学校は信太小学校に通学し、中学校になると基本的には富秋中学校に進学であるが、信太中学校への進学も選べることになっている。小中一貫校となると、小学校から信太小学校か富秋の小中一貫校かどちらに通学するかを選べることになるという。
- ・ 小中一貫校となった場合は、葛の葉町の不動産物件の広告に、「信太小中学校か富秋の小中一貫校のどちらかを選択できる校区の物件」というような記載をしてもらえるのか。校区単位で物件を探す人も多いと思う。民間企業の活動なので強制は難しいかもしれないが、市から啓発してもらうなど意見交換していければと思う。
- ・ 校区問題について。中途半端な校区編成はないと思う。今の富秋中学校校区は基本的に富秋中学校に通うことになっており、申請があれば信太中学校にも通学することができることになっている。小中一貫校ができた場合は、新1年生から原則どこの学校に通うのか明確に決める必要があるのではないかと。例えば富秋中学校ができた時に、池上町の人たちはこれまで和泉中学校に通学していたが、校区編成により富秋中学校に通学することになった経過がある。このことから校区についてはあいまいにしてはいけないと思う。校区を決める決定機関は市教育委員会の適正就学対策審議会である。我々が決定できる問題ではないかもしれないが、今後も意見を述べていかないといけないのではないかと。

- ・この検討会議で扱うテーマが広いので、どうすればこの地域に子どもが増えるのか、人が集まるのかということについて具体的に1つずつテーマをしぼり考えていかないといけないのではないのか。例えば、魅力あるまちづくりをしていくにあたり、地域に対し、現在富秋中学校が行っている活動をもっと積極的に周知していく必要があるのではないか。現在の富秋中学校は学力が低い、ガラが悪いというアンケート結果もあるが、一昨年の台風21号災害の時は、富秋中学校の生徒が市営和泉第一団地の入居者にボランティアで水を届ける活動を行ったりもしていた。このように地域に貢献したいと思っている富秋中学生もたくさんいるので、昨年度の地域クリスマス会ではこのような活動内容を報告したりもした。これからもこのような機会を作っていきたい。
- ・葛の葉町は現在、小学校区は信太小学校区、中学校区は富秋中学校区という分類になっている。新しい小中一貫校ができると、葛の葉町は自治会活動を行うにあたり、どちらの校区に属するのかということも課題となってくる。自治会は小学校区単位で活動していることが多いので、このままでは葛の葉町が分断されることになりかねない。秋祭りなどの地元の活動にも影響してくるので、この問題についても今後考えていかないといけないのではないのか。
- ・校区問題について。現在、国道26号線から海側にある富秋中学校区の地域に住んでいる児童・生徒が、泉大津市の小中学校に通学している問題もあるので、そのことも忘れてはいけないと思う。

■今後の日程について

9月に開催される「ミライの学校を創るプロジェクト」は書面開催と聞いているが、今回出た意見についても反映するよう働きかけていきたい。その後、10月に市が地元説明会を行うとのこと。今後は、小中一貫校の導入に向けどのような魅力ある学校にしていくのかという内容の議論を深めていければと思っている。

■その他

まちづくり構想の事業化に向け、公募型プロポーザルで再編する施設の基本計画及び再編等により生じる跡地の活用計画の作成を行ったうえで、計画の事業化について民間活力の導入可能性調査を行う事業者選定を行った。その事業者選定委員として、地域の代表者というかたちで当検討会議から森事務局長にお願いしていた。現在、優先交渉権者が決定し、契約交渉中であることを報告。(和泉市)

■閉会

向井会長 挨拶

以上